シンポジウム「これからの日本の英語教育と英語研究」

司会　梅咲敦子

コミュニケーション力を伸ばす英語教育についてさまざまな議論がなされているが、今後の英語教育においてフレイジオロジーは重要な役割を果たすと考えられる。本シンポジウムでは、フレイジオロジーとは何か、それは英語教育にどのように貢献してゆけるかを提起し議論するために、フレイジオロジーを言語研究、第二言語習得理論、教育指針である CEFR と新学習指導要領という３つの観点から具体例をあげながら追及する。

(1) 言語研究とフレイジオロジー　梅咲敦子（関西学院大学）

本発表では、コーパスを利用した近年の日本におけるシノニムやコロケーション研究と成句表現研究、さらには語法研究に共通する方向性がフレイジオロジーにあることを指摘する。さらに、独自編纂英語論文コーパスを用いて、論文の情報推移区分に特有の連語（定型表現）を取り上げ、レジスターにおけるフレイジオロジーの重要性を述べるとともに、英語論文指導においては情報の流れと関連した連語習得の有効性を主張する。

(2) 第二言語習得理論とフレイジオロジー　佐藤恭子（追手門学院大学）

本発表では、動詞の項構造の習得上の問題を非対格動詞の受身化の誤用に焦点を当てて論じる。項構造の習得は、「意味」と「構造」のリンキングに関わる問題であるが、学習上の問題を引き起こす要因を概観した後、構文指導の一つとしてコーパスを用いた用例中心の指導法の可能性を考える。そして動詞を中心とした動詞型のパターンを中心に構文指導を行うことの重要性を指摘する。

(3) CEFR、新学習指導要領とフレイジオロジー 泉惠美子（京都教育大学）

本発表では、欧州評議会が 2001 年に公開したヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)に基づいて、EU 諸国で行われている外国語学習、教授、評価について概観し、フレイジオロジーの視点から考察する。一方、日本では、今年度から小学校高学年で外国語活動が必修となり、順次中・高等学校でも新学習指導要領が導入される。そこで、新学習指導要領にみるフレイジオロジーについても触れ、今後の英語教育について考えてみたい。